

ひきこもり地域支援センターに相談し 緩やかに社会参加につながったケース

中学から不登校、通信高校卒業後就労経験がないCさん（30代）。

親も高齢になり、将来のお金や仕事が心配。しかし不安感が強く、働くことに向けて一歩が踏み出せず、どうしたらいいか分からないと本人からご相談がありました。

家族とは会話もあり関係はよいが、ひきこもり期間 15 年以上で社会との接触機会が少ない期間が長かったため、社会で働くことに自信がないとのこと。

Cさんと相談して、最初から就労支援機関に相談に行くのではなく、まずは、定期的にひきこもり地域支援センターに来所していただき、会話や社会活動を通じて経験を積み、生活リズムをとり戻しながら外出練習をしていくことから開始しました。

相談を繰り返す中で、これからどうしたいかをお話しし、コミュニケーション能力や仕事に必要な知識を学習するなど就労支援を利用するため、ひきこもり地域支援センターの職員が同行しながら就労支援機関の見学をすることにしました。

就労支援機関では、キャリア相談とあわせて、コミュニケーションプログラムやビジネスマナー、就活講座などが利用できました。

ひきこもり地域支援センターでは、就労支援機関に繋がってからも連携し、定期的に相談を続けながらサポートしました。

Cさんは地域活動を経験されながら不安感の軽減や自信をつけていられました。

その後、就労支援機関が主催する企業説明会に参加し企業採用者とお話をし、採用を希望された企業で、職場体験をされています。

今は就労に向けて、コミュニケーションのプログラムなどにも参加を続けられています。